

今年のお盆は日本各地で大雨になりました。雨が降り続けていますので、みなさまくれぐれもお気を付けください。

現在会員登録数 3,596 人さま。次号は 9 月 22 日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■  
【1】お知らせ

● オンライン講座「2020年に出版された子どもの本から」視聴受付中！  
2020年に出版された子どもの本を約300冊紹介し、現在の子どもの本の傾向について考えます。（約2時間40分）

◇ 講師：土居 安子（当財団理事・総括専門員）

◇ 視聴期間：7月31日（土）～12月15日（水）

◇ 視聴料：1000円

◆ お申し込みは、外部決済システム「Peatix」イベントページから

<https://2020kodomonohon.peatix.com>

詳細は→ [http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html)

● 「第38回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（日）です。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html#38boshu](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#38boshu)

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第35号の原稿を募集しています。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

◇ 「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第34号」を販売しています。

発行：当財団 2021年3月 A5判 106頁 1650円（税込）

● 再スタート10周年 一次の10年のためにー 記念寄付のお願い

皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

年間1万円以上の寄付をいただいたかたには、佐々木マキさんデザインの当財団新キャラクター「イイクロちゃん」のグッズをプレゼント！  
詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html#special](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html#special)

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」  
<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>  
公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/m1\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html)

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

----- ■  
【2】コラム  
----- ■

\*\*\*\*\*  
《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*  
『人魚の夏』 嘉成晴香/作 まめふく/絵 あかね書房 2021年7月 対象  
年齢：小学校高学年以上

あらすじ：小学5年生になる春休み、小谷知里（ちさと）が海沿いの道を歩いていると、人魚から声をかけられる。人魚は、海野春だと名乗り、知里のお母さんの友だちだという。そして、子どもの「夏」が知里の小学校に転校してくるので仲良くしてくれたらうれしいと言う。夏は知里のクラスに転入し、性別欄は空欄で不思議がられるものの、最初は人気者だったが、合唱コンクールをきっかけに、クラスで孤立していく。

T：ふしぎなテイストの物語でした。性的マイノリティの問題ともかかわらせて、人魚を登場させたアイデアがすばらしい！

Y：人魚の子どもは性別が決まっていなくて、大人になってから性別が決まる。子どものとき、「陸に上がった人魚だっことを信用に足る人に話すんだ。そして一年その人がだれにもそのことを話さなかったら、おとなになってから陸で生活できる権利が得られる」（P.28-29）がルールです。「陸で生活」というところで、アンデルセンの「人魚姫」や小川未明の「赤い蠟燭と人魚」を思わせます。

T：大人はそんなことを思って読むけれど、人魚を出すことによって、現代の問題を無理なく描いている。知里と夏のクラスの子どもたちは、夏の性別を気にするけれど、いったん仲良くなると、それが気にならなくなる。これは、性的な問題だけではなく、友だちとは何か、偏見とは何かという普遍的なテーマにつながっていると思いました。

Y：知里は内向的ですぐに友だちが作れないタイプですが、夏と同じクラスになることによって、同級生たちと関わらざるをえなくなってきた、苦手だと思っていたレオやスズなどと仲良くなっていきます。

T：同級生の夏への偏見、知里の級友への偏見と偏見がなくなる過程は、同時並行ですね。

Y：そして、知里の母である美里と人魚の春の関係と、知里と夏の関係もパラレルに描かれています。

T：美里と春の友情関係の失敗を知里と夏が生きなおすと見ることもできます。

Y：私がいいなと思ったのは、大人になった人魚が、陸で暮らすか海で暮らすかを選択できるということ。誰もが自分らしく自由に生きる権利があるというメッセージが伝わってきました。

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第72回「よく利く薬とえらい薬」

〈にせ金使い〉への視線

病気の母のため、清夫が薬となる「ばらの実」を採りにいくところから語られます。冷たい森のなかに足を踏み入ると、つぐみ、ふくろう、よしきりが次々と出てきて、母のことを心配し、声をかけてくれます。あいさつをしながら通り過ぎ、森のなかの〈明地〉に出ると、そこは小さな円い緑の草原で、まっ黒なかやの木や唐檜に囲まれ、その木の脚もとには野ばらが一杯に茂って、丁度草原にへりを取ったよう〈なところ〉でした。

清夫は紫色に焦げたばらの実を取りはじめますが、いつまでたっても籠の底が隠れず、とうとう疲れてぼんやりと立ち尽くしてしまいます。ところが、思わずひとつぶのばらの実を口にあてたところ、立ちどころに清々しい気分になり、眼や耳、匂いまではっきりわかるようになります。それは、〈雨の雫のようにきれいに光ってすきとおっている〉不思議なばらの実で、清夫の母もその実ですっかりよくなります。

この噂を聞きつけた〈にせ金使い〉の大三は、人を雇ってこの透明なばらの実を探させます。太っていたために体調不良を感じており、それを治したいと思ったのでした。が、森へ行っても見つからず、集めさせたばらの実をもとに自分で作ろうとしますが、できた毒薬を飲んで死んでしまいます。

ここで描かれている〈ばら〉は、山野に自生する野ばらのことであり、〈実〉は昔から薬用とされてきました。その薬に魔力が宿ることも含め、親孝行な息子の行いによって病気の母が全快し、それを見ていた隣人が失敗するという形式（「隣の爺型」）は、いわば典型的な昔話的構図と言えます（中野隆之『宮沢賢治童話作品論集』葦書房 1996年）。

つまり「こぶとり」や「はなさか」と同じパターンですが、やや特徴的なのは後半、偽物使いが偽物の薬（〈雨の雫のようにきれいに光ってすきとおっている〉不思議なばらの実）を人為的に作ろうとし、死んでしまうところでしょうか。勧善懲悪、因果応報の手厳しい結末を迎えますが、何でも財力（金）で作り出せるという不遜な態度が死を招くところに、こうした輩に嫌悪感を抱く作者の視線を感じます。（ペ吉）

（本文の引用は、筑摩書房刊『宮沢賢治コレクション3 よだかの星』によりました。）

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

AB 船員（エイブルシーマン）ティティは、〈報告〉とか〈敵船分捕り〉とか〈敵〉とか〈戦利品〉とか、いろいろというべきことを、ちゃんと考えておいたのだった。ところが、いざというときになると、べつの言葉がひとりでにとびだしてしまった。そして、じっさいには、「私分捕っちゃったわ。」といただけだった。

（『ツバメ号とアマゾン号』下 アーサー・ランサム/作 神宮輝夫/訳 岩波少年文庫 岩波書店 2010年7月 p.74）

「ランサム・サーガ」全12巻の第一巻。ジョン、スーザン、ティティ、ロジャの4人きょうだいが、帆船ツバメ号を操って、湖の中にある無人島まで行ってキャンプをする夏休みの物語です。4人は、湖のそばに住むナンシイ、ペギイ姉妹のアマゾン号と船を取り合う「戦争」をし、「戦争」後は、一緒にキャンプをしたり、宝探しをしたりします。

引用の場面は、「戦争」中。ツバメ号は、アマゾン号をのっとるために出かけますが、ティティだけはキャンプのあるヤマネコ島で留守番をします。その時、アマゾン号がやってきてヤマネコ島を乗っ取ろうとします。ティティは、ナンシイとペギイが島に上陸したのを知って一人アマゾン号に乗り込み、ナンシイたちを島に置き去りにします。つまり、アマゾン号を「分捕った」わけです。

アマゾン号を乗っ取りに行ったツバメ号の乗組員たちは自分たちの計画が失敗したことを知って帰還します。そして、アマゾン号に乗ったティティに出会います。

この作品のおもしろさは、子どもだけの冒険、帆船の操縦、きょうだい関係、友情など数え切れませんが、自分たちや周りの人を船乗りや海賊などにたとえた徹底的な「ごっこ遊び」であることも重要な要素です。作品からは、子どもたちがごっこ遊びに夢中になる楽しさと、それを客観的に楽しむ冷静な視点の両方がユーモラスに描かれています。引用の部分でも、想像豊かなティティが、運よくアマゾン号を手に入れたことを、いかにきょうだいに伝えるかをわくわくしながら考えている様子と、実際に言ったことばから読み取れる率直な喜びと興奮が伝わってきます。

『ツバメ号とアマゾン号』は、岩田欣三・神宮輝夫の共訳で1958年に出版されました（岩波少年文庫）。その後、ハードカバーの「アーサー・ランサム全集」全12巻（1967年～68年、岩波書店）が岩田・神宮で翻訳を分担して出版されました。そして、2010年～2016年には、神宮輝夫単独の改訳版が出版されました（「ランサム・サーガ」全12巻24冊、岩波少年文庫）。それによって、1930年に出版された作品を、今でも子どもたちが楽しむことができます。

また、神宮輝夫先生は、研究者としても、評論家としても、そして教育者としても日本の児童文学の歴史を築いてこられました。そのことが高く評価され、先生は、2009年に国際的児童文学賞である国際グリム賞を受賞されました。

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/01\\_grimm/2009.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/2009.html)

8月4日に逝去されたとの訃報を知り、とても残念な気持ちと同時に、先生への感謝の気持ちでいっぱいです。「ランサム・サーガ」を読み直しながら、「子どもの本とは何か」について考え続けたいと思います。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

佐川美術館で9月5日まで開催されている「今森光彦展 いのちめぐる水のふるさとー写真と切り絵の里山物語ー」に行ってきました。写真家の今森光彦さんは、滋賀県の湖西地域の仰木地区にあった荒れ地を自分で手入れしてつくった里山に囲まれたアトリエをもっています。この展覧会では、田園風景や里山の自然、植物、昆虫や鳥などの生き物の写真、今森さんの里山でのライフスタイル、切り絵、琵琶湖水系についてなどが大きく4章に分けて展示されています。

最初に紹介されている里山から眺めた棚田の風景は、一面緑の頃の写真、田植え前の水面が輝いている写真、雪が積もった写真と四季の様子がきれいです。写真にはひとつひとつエッセイ風の説明がつけられていて、里山の世界に引き込まれます。

蝶が70種類もいるアトリエの庭は「オーレリアンの庭」と名づけられています。オーレリアンとは、ラテン語の金の蛹に由来する言葉で、蝶を愛する人たちのことを指すそうです。ナガサキアゲハとボタンクサギ、キアゲハとエキナセアなど、色とりどりの蝶と花の組み合わせの写真がありました。クワの実ジャムや塩レモンづくり、カリンのお茶など、里山の暮らしを楽しむ紹介も興味深かったです。

今森さんは切り絵作家でもあり、植物や鳥などの大きな作品も展示されました。写真とはまた違った鮮やかな色合いです。切り方が解説された動画もありました。

琵琶湖を五感で感じながら育った今森さんが、里山を作りながら、自然を楽しみ、自然との共生を考え続けて生きていらっしゃる様子が写真や切り絵から伝わってきました。これからの私たちの暮らし方のヒントをもらったような気持ちになりました。(K)

佐川美術館 <https://www.sagawa-artmuseum.or.jp/>

■ ----- ■  
【3】全国のイベント紹介  
■ ----- ■

● 2021 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展

会 期：8月21日(土)～9月26日(日) 水曜休館

時 間：10:00～17:00

場 所：西宮市大谷記念美術館(兵庫県西宮市)

料 金：有料

主 催：西宮市大谷記念美術館/(一社)日本国際児童図書評議会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■

#### 【４】プレゼント

■ ----- ■

今号のコラム《１》「この本読んだ？」で紹介しました『人魚の夏』を１名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.132 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は９月１０日（金）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

かつてない夏の長雨続き。収穫を待つ農作物への影響は大丈夫でしょうか。お盆におおぜい集まれば、ブドウやスイカなどの果物を食するのが我が家の習慣。夏の疲れた体に甘い果物はさすがさがしをもたらせてくれます。来夏こそ、孫と一緒に食べることを楽しみにしつつ、感染拡大や気象情報が気になるこの頃です。(T A)

-----

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

-----